

船舶事故調査報告書

令和7年5月28日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和6年7月28日 09時45分ごろ
発生場所	和歌山県白浜町高島南南西方沖 番所鼻灯台から真方位155° 430m付近 (概位 北緯33° 41.4′ 東経135° 20.2′)
事故の概要	プレジャーボートイナダマリンFAST23④は、投錨作業中、干出岩に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和6年8月14日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート イナダマリン FAST23④、1.3トン
船舶番号、船舶所有者等	252-28004 和歌山、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊
負傷者	なし
損傷	船底及びプロペラに擦過傷等
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南、風力 3、視界 良好 海象：波高 約1m、潮汐 上げ潮の末期
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者3人を乗せ、スノーケリングの目的で高島の南南西方沖に到着し、船長がGPSプロッターで本船の真下の水深が約8mあることを確認して錨泊作業を始めた。 船長は、投錨作業中、船底からガリッという音が聞こえたので、船外機を停めて本船の周囲を確認したところ、本船が水深約1mの暗岩（以下「本件暗岩」という。）上に移動していたので、本件暗岩に降りて本船を沖に向けて押したが、本船は波を受けて更に高島近くに圧流されて干出岩に乗り揚げた。 本船は、同乗者の1人が出航したマリーナに電話して救助を依頼し、来援したマリーナのプレジャーボートにより干出岩から引き出され、出航地にえい航された。 船長は、毎年高島にスノーケリングに来ており、高島周辺に干出岩が拡張していることは知っていて、いつも錨泊していた場所で錨泊作業を始めたつもりであったが、錨泊作業を始める前にGPSプロッターで本船の正確な位置や周囲の水深を確認していなかった。 本船の喫水は、船首約0.3m、船尾約0.8mであった。
分析	本船は、錨泊作業中、暗岩に船底が接触した後、波によって圧流されたことから、干出岩に乗り揚げたものと考えられる。 船長は、錨地付近に浅瀬が拡張している状況を知っていたものの、錨泊する際、本船の真下の水深が約8mであったので、錨泊作業を始

	めたものと考えられる。 船長は、錨泊作業前に錨地付近の水深の状況及び船位をGPSプロッターで正確に確認していなかったものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、錨泊作業中、船長が錨泊作業前に錨地付近の水深の状況及び船位をGPSプロッターで正確に確認していなかったため、本件暗岩に接触した後、波によって圧流され、干出岩に乗り揚げたものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 ・ 小型船舶の船長は、浅所付近で錨泊する場合、事前に海図等により浅所の位置等を調査した上で、GPSプロッターで自船の正確な位置及び周囲の水深を確認し、浅所から安全な距離を確保すること。